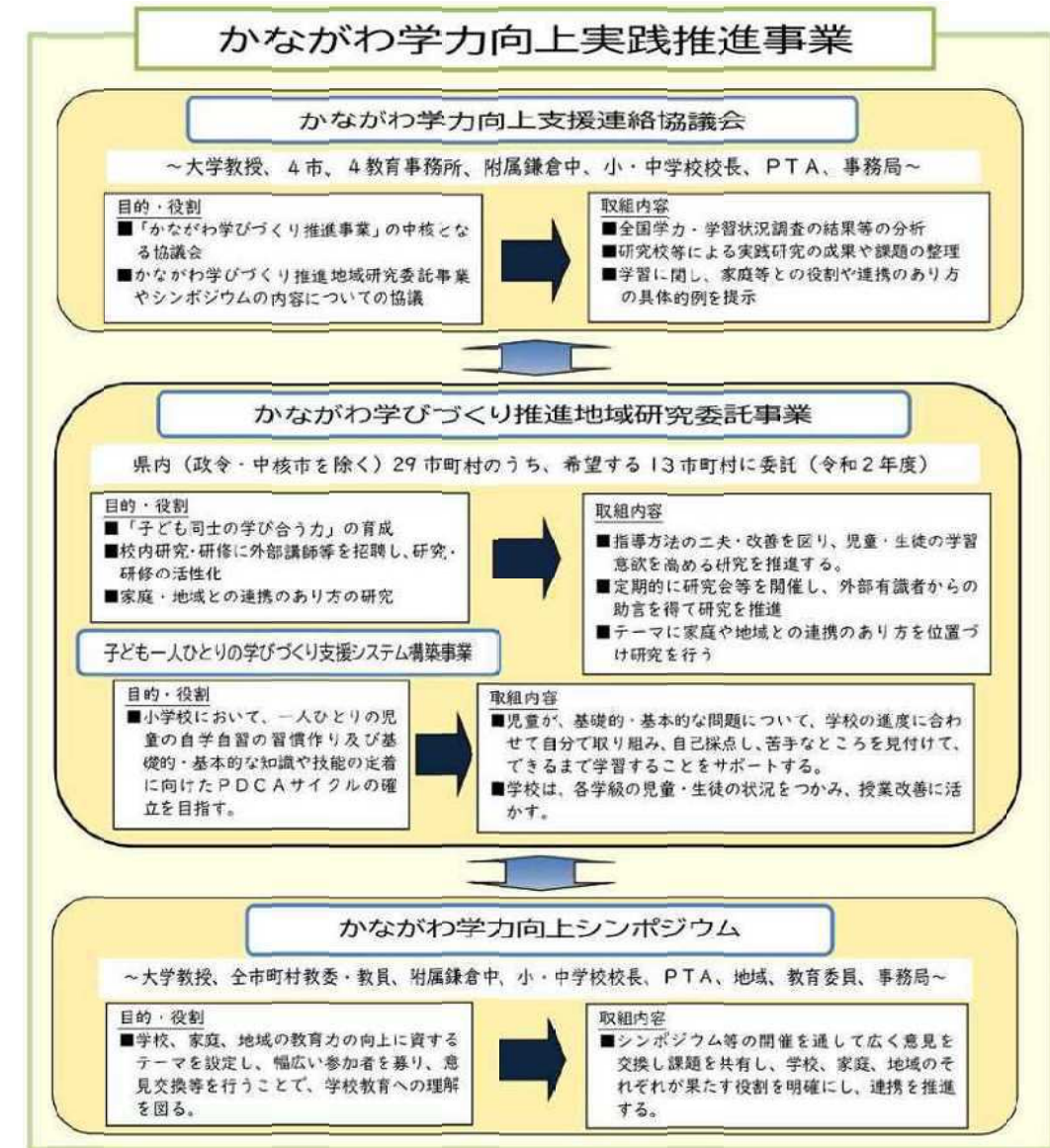




かながわの 学びづくり プラン

神奈川県教育委員会では、「かながわ学力向上実践推進事業」を平成20年度から実施しています。この事業は、平成19年4月に始まった全国学力・学習状況調査の調査結果等の分析をとおり、今後の指導の改善につなげることを目的とした有識者を中心とする「神奈川県検証改善委員会」の報告をもとに始まりました。本事業では、下図のように、3つの取組(かながわ学力向上支援連絡協議会、かながわ学びづくり推進地域研究委託事業、かながわ学力向上シンポジウム)を連動させて実践研究を進め、その成果を全県へ周知しています。



令和2年度 かながわ学びづくり推進地域研究委託事業 研究委託地域と研究テーマ

研究委託地域	研究テーマ
藤沢市	小中連携で学び合う授業づくり
茅ヶ崎市	豊かな人間性と自律性をはぐくむ学校教育の充実 ～学びの質を高める学校教育の充実～
三浦市	郷土三浦に誇りをもち、これからの社会をたくましく生き抜く人材の育成
葉山町	多様性を認め合い 夢の実現に向かって 主体的に学び続ける葉山の子ども
寒川町	確かな学力を身につける教育の推進 ～豊かな心と確かな力 瞳輝く寒川の子～
海老名市	9年間を通じて確かな学力や豊かな心を育む、主体的な学びの実現に向けて
愛川町	主体的に人や社会と関わり、よりよく学び続けようとする児童・生徒の育成
清川村	幼・小・中の12年間を見通した確かな学力と豊かな心の育成 ～輝き・愛着・誇りを持って未来を支える「清川っ子」の育成を目指して～
秦野市	学びの高まりと授業改善
南足柄市	夢と希望を持って、粘り強く自分の道を切り開く子どもの育成 ～「確かな学力」の向上をめざした指導の工夫・改善～
大井町	「質の高い授業の創造」 ～一人ひとりの資質・能力を育成する授業づくりと 人間としてよりよく生きるための道徳性の育成をめざして～
松田町	質の高い学びの創造 ～自立・創造・共生の視点から～
山北町	主体的な学びをとおりした確かな学力の向上をめざして

各地域の研究の概要を、令和2年度かながわ学力向上シンポジウム(オンライン)で紹介しました。神奈川県ホームページにも掲載しています。[かながわ 学びづくり推進地域](#)で検索。



令和3年度は、17市町村(鎌倉市、藤沢市、茅ヶ崎市、三浦市、葉山町、寒川町、海老名市、愛川町、清川村、秦野市、大磯町、二宮町、南足柄市、大井町、松田町、山北町、真鶴町)を、かながわ学びづくり推進地域研究委託事業の研究委託推進地域としています。

また、令和3年度かながわ学力向上シンポジウムは、令和4年1月23日(日)午前中に開催する予定です。

問合せ先:神奈川県教育委員会 子ども教育支援課 教育指導グループ
電話:045-210-8217(直通)

※ 本紙は、令和3年度の各学校・家庭・地域での「かながわの学び」の充実につなげていただくよう、令和2年度の「かながわ学力向上実践推進事業」を紹介するものです。各ホームページも併せて御覧ください。

令和2年度 かながわ学力向上シンポジウム 令和3年1月24日(日)オンライン開催



(案内チラシ)

県教育委員会では、平成19年度より、学校教育、家庭教育、地域の教育力の向上に資するため、それぞれの役割や協働した環境づくり等について広く意見交換をするシンポジウムを毎年開催しています。

前年度までは平日に開催していましたが、令和2年度は「今、楽しみながら学び続けるために」をテーマに、初めて休日にオンラインで開催しました。当日は学校関係者や保護者だけではなく小・中学生、大学生・大学院生も参加し、それぞれの立場で、コロナ禍における「かながわの学びづくり」や学力の向上について語り合いました。

神奈川県ホームページも御覧ください。

[かながわ 学力向上](#) で検索。



「令和2年度かながわ学力向上シンポジウム」の概要(子ども教育支援課まとめ)

前半「今、子どもの学びは・・・」

報告① 平塚市立金旭中学校長 林 孝之 先生

本校では、生徒会本部役員と有志による、「校舎をアートで飾るプロジェクト」が立ち上がり、地元業者とPTAとも協働して校舎に壁画(写真提示)を完成させ、生徒たちの達成感につながった。



楽しみながら学び続けるには、学校が中心となり、保護者・地域が連携する環境を整え、どのように生徒を支援・指導していくか、つまり「チーム学校」の教育力をいかに生かしていくかが、これからの子どもたちが楽しく学べる鍵になると感じている。

報告② 横浜国立大学教育学部附属鎌倉中学校 海野功子 先生

生徒に楽しみながら学ぶことについて尋ねると、制約がある中でも、「友達の意見を取り入れ新しい学びができたとき」などと答えた。生徒同士が共感したり対立したりする中で学びが広がり、高め合えることを、コロナ禍においても実感している。



自分たちで学ぶ価値を見出し、学習意欲を保障する環境づくりを続けたい。

報告③ 神奈川県PTA協議会副会長 大木健一 さん

臨時休業中も、子どもは興味をもてたことに夢中になって取り組み、成果を残した。

先生から子どもに出される課題は、保護者にとっては「家庭と学校をつなぐメッセージ性をもったひとつのツール」だと思う。

様々な場面で「新しい生活様式」という言葉を耳にする。オンラインの技術は、新しいというよりは来たるべき変化が急速に訪れたことだと感じている。これからは有効な何かがある現在の仕組の中に隠れていないかということ、PTAの場でも探していきたい。

中学生の発言(前半の全体共有より)

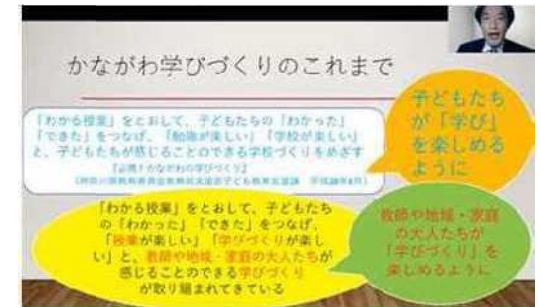
中学3年生の最後の大事な1年間は、コロナウイルスの影響を受け、みんなと絆を深める機会を多く失った。しかし、附属鎌倉中学校では、授業で、意見の発表や協議などがソーシャルディスタンスを意識した上で活発に行われ、授業で考え方を深められるだけでなく、学年が上がるにつれて生徒が主体的に授業を行えるようになってきた。

後半「楽しみながら学び続けるために・・・」

基調提案①「かながわの学びづくり」 横浜国立大学教育学部教授 青山浩之 先生

「学びづくり」は、授業をよりよくしていくことを意味している。神奈川県では学力というのをテストで測るような学力だけではなく、「将来子どもたちが豊かに社会に参加できる真の学力」と捉えてきた。

子どもたちがわかる授業を通して、子どもたちの「わかった」「できた」をつなげ、「勉強が楽しい」「学校が楽しい」ということを感じる学校づくりを目指している。



基調提案②「学びづくり、つながりづくりから豊かな学びへ」 横浜国立大学教育学部教授 池田敏和 先生

早く多くの知識を詰め込むことを追求する学びを「貧しさ」、一方、活動を通して次に活かせる知識・技能を獲得する学びや、体験を振り返り次に生かせる経験へ変えていく学びを「豊かさ」と捉えている。

活動を通して学ぶことで器が大きくなり、やがては、自分で自分を成長させ続けることができるようになる。



小学生の発言(後半の全体共有より)

学校では、グループで考えたりすることができるようになってきた。グループで考えることは学校でしかできないので、グループでいいことを真似し合うことがいい。いいことをどんどん深めていくといい。

コメンテーターによるまとめ ①青山教授

ふだんから豊かな学びを展開していれば、いかなる状況でも学ぶことができる。

グループ協議ではそれぞれの思いを受け取り、ご自身の話をしてくださった。これこそが、みんなで学びづくりを楽しむことだと改めて思う。

コメンテーターによるまとめ ②池田教授

コロナ禍で制約がある中、試行錯誤し、取り組んだ中から課題が見えてきた。そのようなとき、話し合うことによって次の一歩を考えられる。その対話が大切である。

よりよいものをみつけられるように、今日のシンポジウムのような話し合いを各地域や学校で続けていきたい。